

センター後援行事

シンポジウム:新教育課程における授業改革

— 認知心理学の視点から —

(第2回日本認知心理学会公開シンポジウム)

報告者 市川 伸一(教育心理学コース 教授)

実施日 2011年3月13日

於 経済学研究科棟第1教室

本シンポジウムは、日本認知心理学会の主催であるが、学校教育高度化センターとも密接な関連のあるテーマであるため、センターに後援を依頼し、センターのホームページにも案内文を掲載して学校教育関係者の参加を広く呼びかけた。

3月11日午後に勃発した大地震のために、開催が危ぶまれたが、後述する報告にあるように実施の判断がなされ、無事に終了した。

企画趣旨

OECDのキーコンピテンシーやPISA調査なども含め、グローバルな教育改革の背景には、認知心理学的な視点が盛り込まれている。我が国における学習指導要領改訂の審議においても例外ではない。習得—活用—探究 それぞれにおいて、学習方略、知識獲得、概念形成、問題解決、論理的推論、コミュニケーションなどに関する認知心理学が、カリキュラムのベースとなるとともに、教科教育とは異なる側面から学習指導論を提供することが期待される。いよいよ新年度から新教育課程が本格実施となるのを機に、本シンポジウムでは、認知心理学と授業の関わりを考えていきたい。

【企画】

市川伸一 (東京大学・教授)

【総合同会】

藤澤伸介 (跡見学園女子大学・教授)

【話題提供】

無藤 隆 (白梅学園大学・教授)

新教育課程における授業と評価:
認知心理学的な視点から

内田伸子 (お茶の水女子大学・教授)

ことばの力を培う「みんなで伸びる授業デザイン」—学問知と臨床知の架橋⇄「論理科」開発—

市川伸一 (東京大学・教授)

理数教育における授業改善の方向 —理解を深める課題と指導とは—

【指定討論】

村石幸正 (東京大学教育学部附属中等教育学校・副校長)

齊藤 純 (文京区立根津小学校・校長)

なお、本シンポジウムについては、下記のような報告が3月14日付けで企画者(市川)から日本認知心理学会の理事に対してなされ、学会および高度化センターのホームページにも掲載されている。

3月13日の午後1:30~5:00に予定されていた公開シンポジウム「新教育課程における授業改革—認知心理学の視点から—」は、予定通り実施し、無事終了いたしました。

11日の大地震勃発後には、こちらから中止のお知らせを伝える方法がなく、東大の施設状況と東京での交通機関の復旧を見込んで、「せっかく来てくださる方のためにも」という趣旨で、ひとまず実施の判断をいたしました。

12日には、後援組織の「東京大学大学院附属学校教育高度化センター」のホームページに、実施することをお伝えしました。登壇者にも問い合わせましたところ、いずれも在京者で、さしつかえないとのことでおいでいただくことができました。

当日は、56名の参加を得て、予定通り進行しました。なお、この時点で東北地域を中心に多くの死傷者が出ていることが報道されておりましたので、1分間の黙祷ののちにシンポジウムを行いました。

事前に194名という非常に多数の申し込みがあり、今回のテーマに対する関心の高さがうかがわれました。当日も、鹿児島、岡山、新潟などからの参加者もあり、非常に熱のこもった話題提供と討論となりました。

事後アンケートでは、ほぼ全員から「非常に参考になる内容だった」「学校の授業に生かしたい」という回答をいただきました。

関係者の方々には、多くのご心配をおかけしました。以上、ご報告させていただくとともに、あらためて、今回被災された方々に対して心よりお見舞い申し上げます。
